東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010 年 1 月 15 日

創造の力を持つ唯一のものは、崇高なるアッラーです。

ムスリムの皆様。何ものも隠されることのない知識、限りなく全能な力、制限されることのない意志を持つアッラーを他のものと区別する明確な特徴は、そのお方が創造主であるということです。したがってアッラーと他のものとの基本的な違いは、一方は創造主でもう一方は被造物であるという形で対照的であることです。

アッラーと被造物との関係を最も包括的に説明している言葉は、創造という概念です。崇高なるアッラーには、何も欠けているものはありません。それと共にそのお方は、自由な意志で万物とその中にあるものを創造し、無から存在化していました。

これから皆もう一度、創造に関するクルアーンの幾つかの節へ耳を傾けて考えましょう。

イスラームの信仰において、創造する力を持つ唯一の存在は、崇高なるアッラーです。[1] アッラー以外に神様として高められているものは、何にも一切創造できないということが、クルアーンにおいて次のように強調されています。『かれら（不信者）がアッラーを差し置いて、祈りを求めるものたちは、何も創造しない。しかもかれら自身こそ創造されたものである』[2] なにものが創造されかつ現われるためにアッラーが、「有れ」と御命じになれば、充分です。[3] そして崇高なるアッラーは、御望みになったことを御望みの形で直ちに創造できると共にすべての物事を、きちんと計って創造されているのです。[4]

親愛なるムスリムの皆様。創造は継続的なことです。クルアーンにおいて、崇高なるアッラーについて「継続的で完璧な創造主」という意味を持つ「ハッラーグ」という特徴がクルアーンでは『日毎に彼は、（新たな）御業で処理なされる』[5] 『また彼はあなたがたの知らない（外の）色々な物を作られる』と述べられているます。[6]

何かを無の段階から存在するという段階へと至らせることはは、創造主が創った物事のすべてのことを承知することを必要としています。クルアーンでは『彼が創造されたものを、知らないであろうか、彼は、深奥を理解し通暁なされる』[7] と語られています。

他の物事と同様人間の創造主でもある崇高なるアッラーは、人々のことについて彼らよりもっとよくご存知であられ、、そして人間が本来持っている良い面と悪い面も良く知っておられます。クルアーンでは『本当にわれは人間を創った。そしてその魂が囁くことも知っているわれは（人間の）頚動脈よりも人間に近いのである』[8] と述べられています。

天と地そしてその間にあるものは無意味に創造されたわけではありません。それらの創造には何の目的や叡智があります。このことについてクルアーンでは次のように説明されています。『われは天と地、そしてその間のすべてのものを戯れに創ったのではない。われは、天地とその間の凡てのものを、ただ真理のために創った。だが、彼らの多くは理解しない』[9] この節で語られている創造の目的とは、人間の中で誰の行いが優れているのかを試みることです。[10]

この世は、競争の場です。アッラーが人間に与えられた様々な恵みと能力をどうやって費やすのかを試され、それが明らかにされるところです。つまり誰の行いが優れているのかを見定める場所です。[11]

創造の叡智や目的をよく理解し、それに乗っ取って人生を送るムスリムになっていく上で、我々の主の御助けを乞い願います。彼は何と優れた保護者、何と優れた援助者であられることでしょうか。

---

[1] 第 7 章 54 節.
[2] 第 16 章 20 節; 同上参照、 第 7 章 192 節; 第 25 章 節.
[3] 第 23 章 68 節.
[4] 第 54 章 49 節; 同上参照、第 25 章 1-2 節; 第 87 章 2 節.
[5] 第 55 章 29 節.
[6] 第 16 章 8 節.
[7] 第 67 章 14 節.
[8] 第 50 章 16 節.
[9] 第 44 章 38-39 節; 同上参照、第 15 章 85 節; 第 46 章 3 節.
[10] 第 11 章 7 節.
[11] 第 67 章 2 節.